

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 69  
2022.1

TOPICS

1

## 岡山史料ネットがマルセン文化賞を受賞



文明動態学研究所の今津勝紀教授が代表を務める「岡山史料ネット」は、スポーツや文化の発展に貢献した県ゆかりの個人・団体を顕彰する「マルセン文化賞」を受賞し、1月11日にホテルグランヴィア岡山で開催された表彰式に今津教授や松岡弘之学術研究院社会文化科学学域講師（岡山史料ネット事務局長）らが出席しました。

岡山史料ネットは、歴史資料や広義の文化財の保全と社会におけるその活用を実践的に進めるボランティア組織として岡山大学日本史研究室が事務局を担っており、主として岡山県内の歴史資料等の保存・継承のため、関係諸団体と連携して、大規模災害発生時の対応および、災害発生に備えた歴史資料等の保全・活用を行っています。被災した地域歴史資料の修復を通じて、住民を主体とする地域史研究に取り組むなど多大な功績を挙げたことが受賞につながりました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id10799.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10799.html)



TOPICS

2

## 教育学部がモンゴル国立教育大学数学・自然科学部と学部間協定を締結

本学教育学部は1月11日、モンゴル国立教育大学数学・自然科学部と学部間協定を締結しました。モンゴル国立教育大学はモンゴル・ウランバートルに位置し、モンゴルの教育学研究及び教員養成の拠点大学です。令和元年11月に本学が開催した「2019 ESD教師教育世界大会」での共同セッションの企画・運営、そして令和3～6年度日本学術振興会研究拠点形成事業（A. 先端拠点形成型）「SDGs達成に向けたESD（持続可能な開発のための教育）の教師教育の先端拠点形成」等による共同研究を通して、互いの交流を進めてきました。

協定の締結はオンラインで行われ、三村由香里教育学部長とGanbaatar Tumurbaatar モンゴル国立教育大学数学・自然科学部長との間で調印されました。今後、両学部は日本とモンゴルの教育学研究の発展に資すべく、共同研究やセミナー開催を進めるとともに、教職員及び学生の派遣・招聘を進めていきます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id10796.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10796.html)



Pick up!

## 「岡大TV」の配信を開始



本学は、令和2年度に国立大学イノベーション創出環境強化事業に採択されており、その取り組みの一環として、岡山大学のブランド力向上を目的とした「岡大TV」を立ち上げました。

高校生をメインターゲットに、今こそ岡山大学を選んでもらえるようにYouTubeを中心にInstagramやTwitter等のSNSを連動させ、学内の名所や日常生活、サークル活動等、岡大生が学生目線で魅力発信を行います。また、FacebookやTikTokも連動させ、受験生の保護者など様々なステークホルダーに向けて情報発信を行う予定です。第1回目は「空から見る岡大と秋の銀杏並木」として、YouTubeチャンネルの配信を開始しました。その他のSNSも随時更新予定です。

参考 <https://www.youtube.com/watch?v=YOKMsO3JMG0>



TOPICS

3

## 内田哲也准教授、能年義輝准教授に岡山大学「研究教授」の称号を付与

本学は、学術研究院自然科学学域の内田哲也准教授及び学術研究院環境生命科学学域の能年義輝准教授を9月15日に研究教授として選任し、12月14日に研究教授の称号付与式を学長室にて開催しました。

内田研究教授は、優れた機能・性能を有する新規高分子材料の研究開発を行っており、力学的性質に優れ、軽量なバイオマス材料であるセルロースナノファイバーの自動車用部品への応用や、光電変換色素を固定したポリエチレンフィルムを用いた人口網膜の開発など、幅広い領域での更なる活躍が期待されています。

能年研究教授は、植物免疫機構の解明や植物の免疫応答を活性化する薬剤の研究開発を行っています。2021年に発見した、植物の免疫応答を抑制する化合物は、植物の免疫機構の理解や耐病性を制御する技術開発に貢献すると期待されています。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id10795.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10795.html)



TOPICS

4

## 剣道部の福井さんがインカレに出場しました



2021年12月4日に、「第69回全日本学生剣道選手権大会(インカレ)」が墨田区総合体育館(東京都)で開かれ、本学剣道部の福井駿斗さん(工学部3年)が初出場しました。

本大会には、各地域より選出された176人が参加。福井さんは、中四国連盟から選出される16人の中に選ばれました。

福井さんは初戦となる2回戦で朝日大学(岐阜県)の重綱大地さんと対戦しましたが、惜しくも敗退しました。

大会を振り返って福井さんは「全国大会に出場でき、とても良い経験になりました。今大会の敗退の悔しさを忘れず、見つかった課題を克服するためにしっかりと稽古し、来年度は個人・団体ともに全国大会に出場できるように頑張ります」と話していました。

現在、剣道部には男子26人、女子10人の計36人が所属。次に目標とする大会は5月の中四国学生剣道選手権大会・中四国女子学生剣道選手権大会になるため、大会での上位入賞を目指して日々練習しています。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id10791.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id10791.html)

PRESS  
RELEASE

## 高比表面積キャパシタ炭素電極の開発

岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程の梅澤成之大学院生と学術研究院自然科学学域(工)の林靖彦教授、関西学院大学、星和電機株式会社、そして英国のSurrey大学の国際共同研究グループは、亜鉛を含む金属有機構造体(MOFs)を出発原料とし、マイクロ孔、メソ孔が豊富に含まれる高比表面積の多孔質炭素材料を開発しました。

本研究では、出発物質に亜鉛を含む金属有機構造体(MOFs)を用い、亜鉛や酸素の含有比率が焼成中の亜鉛の動的挙動に影響し、多孔質炭素材料の細孔特性に大きく影響することを明らかにしました。この多孔質炭素材料は、市販の活性炭を超える高比表面積をもち、電気二重層キャパシタの電極に用いることで高容量化を実現しました。本成果は、新規の多孔質炭素材料の製法として、今後の期待が高まるエネルギー貯蔵デバイス電極材料や燃料電池触媒担体の開発へつながります。

本研究成果は、2021年12月4日に出版社Wiley社の学術誌「*Energy & Environmental Materials* (Impact factor:15.122)」のResearch Article(First published)として掲載されました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id910.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id910.html)



梅澤大学院生  
星和電機(株)

